

◆ 議長記者会見概要

日 時：平成31年3月15日（金）15：30～16：00

場 所：県政記者クラブ（県庁内）

出席者：川口正志議長、奥山博康副議長、小泉米造広報委員会座長



小泉米造広報委員会座長

川口正志議長

奥山博康副議長

〈案件〉

これまでの県議会の取組について

○川口議長

今回の議長としての任期は1年ございませんでしたけれども、議長、副議長、広報委員会座長として、十分な任務をはたせたのではないかと自負しております。

・議員提案による条例等の制定等

議員提案という形での提起も積極的にしてまいりました。

まず、昨年「奈良県庁の橿原市周辺への移転を求める決議」を行いました。

次に、条例としては、「奈良県部落差別の解消の推進に関する条例」を、今議会でまとめ上げることができました。平成29年3月には、同じく人権に関わる「奈良県手話言語条例」を制定しました。また、平成21年10月、

私の議長在任時に、「奈良県がん対策推進条例」も制定し、以後、がんに関わる啓発の展開を、小泉議員が中心となってしていただいています。こういった取組を精力的に今まで行ってきたことを基本にして、今期議会もいろいろな意味での精力的展開を行ったと思います。

・ 議会改革の取組、政策セミナーの開催

これからの時代、会議資料のペーパーレス化という方向を強めています。

また、積極的に政策セミナーを展開しました。特に今年は、「医療現場から見た奈良県の医療の現状と課題について」という演題で開催し、奈良県の国民健康保険の県単位化について、議会としても積極的に関わる展開をしていることをご理解をいただきたいと思います。

・ 開かれた議会に向けた取組

議会を開かれたものにするための取組として、例年行っている高校生議会や議場コンサートなどの取組、あるいは正副議長室を若草山の山焼きの日に開放するなど、精力的にいろんな展開を行っています。また、先ほど申し上げた「奈良県がん対策推進条例」で定めている10月10日の「奈良県がん向き合う日」にあわせて、啓発キャンペーンを行っています。

・ 国際親善

国際親善ということで、今年度は特に「ブラジル日本移民110周年記念式典」に議会として参加しました。

また、去年の秋から今年にかけて、「ジャポニスム2018」公式企画行事へも、奥山副議長を中心に議員派遣しました。1つは、パリにおける春日若宮おん祭りのキャンペーン、もう1つは、ギメ東洋美術館（パリ）での「古都奈良の祈り」展でした。

・ 「南部・東部地域の振興を推進する集い」及び「野迫川村の振興を推進する住民の集い」

「奈良県庁の橿原市周辺への移転を求める決議」について冒頭で申し上げましたが、奈良県の均衡ある発展のための南部・東部地域の振興については、南部選出の議員中心ではございますが、全議員が精力的に対応していただいています。特に今年は、野迫川村の振興を推進するために、野迫川村のホテルを利用して、私が会長である南部振興議員連盟、中南和地域の全市町村長、副知事をはじめ県の主要メンバーが勢揃いして、集いを開催しました。

○奥山副議長

今、議長からほとんど言っていただきましたけれど、1年近く、マスコミの皆さんにお世話いただきましたことを、御礼申し上げたいと思います。

まず、我々の任期中、議員定数が1減になりました。これは全国的にも地方議員の定数についてはいろいろな議論がある中で、我々も何回も協議を重ねて、有権者数が増えている選挙区に合わせるのか、減っているところに合わせるのか議論をし、少ないのがいいものではないという議論もありましたけれども、1減に決まりました。私が県議会議員になってから2回改正があって、48から44、そして今回44から43になりました。県議会議員選挙が始まるのですけれども、かなり熾烈な戦いになります。

この1年で、このことが非常に大きいことだったかと思っています。

また、川口議長は3回目の議長ということで、私は恵まれていました。議長はかなり公務が多いので、今まで議長が行かれていたところを、「副議長、代わりに行け」ということで、名代で行かせていただいた。これは、副議長としてもものすごくいい経験になっています。このことを、今後少しでも県政に生かせればと思っています。

それから、先ほど紹介がありましたように、ジャポニズムの関係で、10月と1月にパリに行って、海外から見た日本、海外から見た奈良というものを勉強させていただきました。これもしっかりとこれからの県政にプラスにしていきたいと思っています。

開かれた議会に向け川口議長を中心に、我々も一緒に頑張りました。議場コンサートは毎年結構多くの方から申込みがあり、コンサートが終わったらすぐに帰られる方も多かったのですけれども、これも回数を重ねて、今年は、半分以上の方に残っていただき、初日の議会を傍聴していただいたということは非常にプラスかと思っています。県民に少しでも奈良県議会について理解していただくための一歩になっているということを、皆さんに感謝しています。

○小泉広報委員会座長

議長も副議長もそれぞれお話をされましたので、重複は避けたいのですけれども、奈良県議会が全国的に見てどれだけ活動しているのかということを考えると、やはり、議員提案による条例制定などを行っていかねばならないわけです。そういう点でいきますと、今回の「奈良県部落差別の解消の推進に関する条例」制定や、「奈良県がん対策推進条例」を制定して毎年10月

10日に県民会議や啓発活動を行っているということは、全国的に見ても非常に良い活動をしているのではないかと考えています。

もうひとつ、この1年間でいきますと、議会運営が非常にスムーズに流れています。いろいろな問題を提起することよりも、スムーズに議会運営をしようということで、議長の配慮もあって行われてきたのではないかと考えています。そういう点では、非常にギクシャクした議会運営が行われていた時もあったわけですが、1年間非常にスムーズにできたのではないかと私は感想を持っているわけですが。

<質 疑>

Q：議会の役割として、知事と協議してよりよい案にしていくということがありますが、その点で、今年1年間を振り返っていただいて、思うところはありますか。

議 長：まず、少数会派を大事にしながら運営できました。理事者との議論は積極的に行いながら、白熱した議論ではありましたが、まとめとしては円満でさわやかに運営できたのではないかと思います。

Q：議会から見て、知事の政策をどのように評価されますか。

議 長：予算を縮減したら振興にならないので、膨らませたらいいのですが、問題は財政の歳入と歳出の健全なバランスです。そういう考え方で私は臨んできたと思います。だから知事は、国に対して、地方交付税や地方消費税の配分に改善を加えろと積極的に提案し、それなりに成果をあげられたことは、議会としては評価をすべきだと私は考えています。このように、財源をまず捉えて、予算は膨らませることです。縮減することだけが、良い政策ということにはなりません。

また、それぞれ意見は違いますが、文化面の予算については、採算の問題で考えたら、縮んでしまい、伝統文化は殺されます。伝統文化を振興するためにはお金がかかるものです。